



平成27年11月19日

高齢社会について考える日中国際シンポジウムを開催

岡山大学大学院社会文化科学研究科（文）の本村昌文准教授は11月28日、日本と中国の両国の研究者を招き、少子高齢化社会の諸問題を考える国際シンポジウムを開催します。

65歳以上の人口が25%を超えた日本、一人っ子政策により急速な高齢化が進む中国。両国にとって、少子高齢化社会によって生ずる問題は、人々の生き方、死の迎え方に深刻な課題を突き付けています。こうした課題に対し、老いとは何か、死とは何か、そして老いて死を迎えるまでにいかに生きるのか、両国のケアの現場から声を発信し、人文学からのさまざまな研究を通して、今後の社会を展望します。

日 時：平成27年11月28日（土） 9:50～17:50

場 所：岡山大学津島キャンパス・文法経講義棟 12番講義室・13番講義室

主 催：科研費・基盤研究B「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな〈老年学〉の構築」（研究代表者：本村昌文、社会文化科学研究科）

共 催：中国社会科学院応用倫理研究センター

岡山大学文学部プロジェクト研究「〈介護者〉の人生に即した介護と看取りの分野横断的研究」

基調講演

鄭吉龍（北京万明医院）

「北京万明医院とその看取りの世界—All bright の理想を目指して」

森本尚俊（特別養護老人ホーム・みなみがた荘）

「特別養護老人ホームの役割—生活から看取りまで」

研究報告

報告① 任蜜林（中国社会科学院）

「儒家の養老思想及びその現代社会における意義について」

報告② 徐艶東（中国社会科学院）

「中国と西洋との間に起きた死生観に関する交渉と衝突」

報告③ 石澤理如（東北労災看護専門学校）

「其弊は廃すべし、其制は廃すべからず—穂積陳重『隠居論』における社会進化と「老い」

報告④ 本村昌文（岡山大学）



岡山大学
OKAYAMA UNIV.

PRESS RELEASE

「日本における老年学研究－橘覚勝の老年学研究をめぐって－」

報告⑤ 周琛（東南大学）

「中国における高齢者ターミナルケアの歴史と現状」

総括 王珏（東南大学）

その他 入場無料、申込不要

＜お問い合わせ＞

岡山大学大学院社会文化科学研究科（文）

准教授 本村 昌文

（電話番号）086-251-7395

（FAX番号）同上